

# せたがや

## 町総連だより

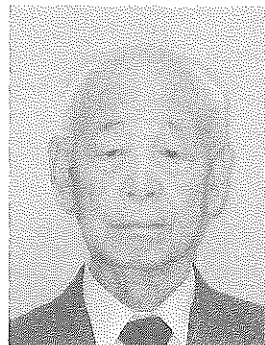
### 第 19 号

発行 世田谷区町会総連合会  
世田谷区若林4-31-9  
ポライト第2ビル2F  
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 安田 憲 吾  
編集 情報誌編集委員会  
編集委員長 鈴木 誠

### 新たな出張所のあり方に関して

世田谷区町会総連合会会長 安田 憲 吾



精一杯發揮し、尽くしたい  
ものです。

こうしたボランティア精  
神の最たるものが町会・自  
治会活動であると思ってお  
ります。

#### 「町会・自治会の果たして 来た役割」

地域の安全を守り明るく  
住みよい社会は、行政だけ  
でなく地域で生活する人々  
の協力によって創られてい  
くものです。

それには、地域の人たち  
の心のふれあいが大切であ  
ります。また、人として当  
然になさなければならぬ事  
こと、努めるべきこと、果  
たさなければならぬこと  
があるのは、いつの時代で  
も、受け入れられなければ、  
人々との幸せも失われてし  
まうような気がします。  
地域社会の発展・繁栄に  
は、自分の持っている力を

町会・自治会は、その多  
くが会員相互の親睦を基本  
に、防犯・防災、環境、青  
少年、福祉、募金などの活  
動を行っております。

また、こうした活動に加  
え、行政の補完業務の協力  
を含めると、行政の全て  
の分野に通じるものであり、  
長い歴史の中で、行政と町  
会・自治会との間で互いに  
協力・連携しあいながら、  
築き上げられて来たもので  
もありません。

#### 「出張所の果たして来た 役割」

80万人の人口を抱える行  
政としては、地域の行政需  
要に應えるため、27の出張

所を配置し、身近なまちづ  
くりを進めてきているもの  
と思われます。

この間、町会・自治会は、  
第一線の出張所と互いに協  
力して、様々な課題に直接  
関与してまいりました。

世田谷区が身近な行政と  
して、発展してきたのも、  
「地域の顔」としての出張  
所長を中心とした組織があ  
り、まちと一緒に地域住民  
の活動を支援してきたから  
ではないでしょうか。

#### 「町会総連合会の対応」

出張所の見直しについて、  
町会総連合会の正副会長会  
を開催することに、行政か  
ら説明がありました。

正副会長もそれぞれの立  
場で、高齢者にもわかりや  
すい自動交付機の設置や説  
明員の配置、稼働時間の延  
長、出張所の改革の効果と  
区民への丁寧な説明を求め

### 目 次

新たな出張所のあり方に関して	1
子どもの心に種を蒔き、 灯を点ける教育を推進します	2
北沢地域 松沢地区の 「ごみ減量リサイクル推進委員会」活動報告	3
玉川地域 ごみ減量リサイクル推進への取り組み	4
砧地域 町会ならではのサービス 一砧町町会わんわんパトロール隊	6

烏山地域 団地建て替えてコミュニティ拡充	7
世田谷地域 町会・自治会活動の 情報交流会が行われる	8
防災行政用無線塔から地域安全情報を放送します	9
町総連ニュース	10
町会・自治会長交替のお知らせ、他	11
防犯重点パトロールを実施しています	12
編集後記	12

るなど、意見・要望を出してきております。

行政からは、あくまで中間報告の説明であるとのことと、見直し内容に進展が見られず、行政の対応に不信感を抱いたことも事実であります。

また、時期を同じくして、一部地域での地区懇談会で職員3人配置の情報が出され、各町会・自治会内で情報が錯綜し、紛糾しているとの話が舞い込んできました。町会・自治会にとって大きな波紋を呼び、混乱を招いたもので、行政の対応に問題があったと言わざるを得ません。

そこで、町会総連合会として、行政に対して、時期を明示し、具体的な説明を求めてまいりました。

「出張所の見直しに関して」  
今回、町会・自治会と連携協力し、良好な地域社会の形成に寄与している最も身近な行政すなわち出張所を見直しすることは、我々

の今後の活動内容にも大きな影響を持つてまいります。

地域コミュニティが希薄になってきている今日こそ、町会・自治会の果たす役割は重要なことであります。

町会総連合会として、熊本区長と懇談する機会に、これまでの区の説明の仕方が不親切であったこと、将来の望ましい地域社会とし

ての町会・自治会を中心としたコミュニティの基本的な考え方やお互いの役割についてなど、区及び出張所と町会・自治会との関係をお話しております。

そうした結果、見直しにあつた名称・体制・業務内容に進展が見られてきております。

この町総連だよりが発行

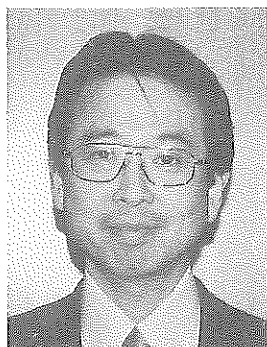
される頃には、町会・自治会等の意見も反映されることと思えます。

今後とも、区が行政改革の一つとしてこの出張所の見直しを、円滑に移行し、冒頭に述べたとおり区民福祉の向上につながり、町会・自治会にとつても、より地域活動が充実していくことを期待するものであります。

## 子どもの心に種を蒔き、 灯を点ける教育を推進します

世田谷区教育委員会教育長

若井田 正文



に教育委員会の施策にご理解、ご支援をいただき心より御礼申し上げます。

さて、最近では、ほとんど毎日のように新聞紙上で子どもに関する記事や教育

町会・自治会の皆様、いつも世田谷の子どもたちのことを温かく見守ってください。また、区立小学校・中学校の学校運営や教育活動並び

もちろん、地域の方々に今まで以上に学校の運営に参画していただけるような学校の運営システム、学校自らが学校の経営・運営を計画・実施・評価するシステムの構築などを目指しています。

もちろん、教育は人になります。どのような教育活動であつても、それに携わる一人ひとりの教員が、教育者としての使命感と情熱を持ち、一人ひとりの子どもたちをかけがえのない存在として教育にあたらなくては、子どもの心に灯を点けることはできません。

私は、教育とは、何よりも人生の先輩である教員が子どもの心に種を蒔き、子どもの心に灯をともし営みであると考えています。

体系的な知識を授業を通して適切に伝えることも大切ですが、しかし、一番大切なのは、子どもの心に、人として生きる夢や希望、人の道を歩くことの喜びなど

の種を蒔き、灯を点けることであると考えます。

「私は思いやりの深いやさしい人になりたいなあ」とか、「家のおばあちゃんがか病気になるようになったとき治してあげられるようにお医者さんになりたいなあ」、「大人になつたら世界で活躍したいから」と英語を勉強しよう」、「宇宙って不思議なあ。宇宙の謎についても知りたいなあ」というような「心の種」を蒔き、心に灯を点ける営みこそが、子どもの成長とともに大きな花を開き実をつけることになるのだと思います。

教育ビジョンも、子どもや教員の心に灯を点けることのできるビジョンにしたと考えています。

ここ数年、世田谷区教育委員会でも全国に先駆けたいくつかの取り組みを進めてまいりました。たとえば、昨年度からは「美しい日本語を世田谷の学校から」という取り組みをすべての区立学校ではじめ、保護者や

地域の方々にもご理解・ご協力をお願いしているところ。私たちが言葉で考え、言葉で表現しています。

また、私たちの使っている日本語は日本文化と密接な関わりがあります。そこで、この取り組みは、各学校で言葉を大切に作る環境を整え、言葉を通して深く考え、自分を表現し、日本文化に対する深い理解をもった子どもを育てることをねらいとしています。この取り組みの一環として、挨拶を奨励したり詩の暗唱を奨励したりしている学校もあります。

子どもたちが学校を卒業してから、「世田谷の学校を卒業してよかった」と心から思えるよう、教育委員会は全力を尽くして取り組んでまいります。どうか引き続き皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。結びに、町会・自治会の方ですますのご発展と皆様方のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

地域情報

北沢地域

# 松沢地区の「ごみ減量リサイクル推進委員会」活動報告

松沢地区町会連合会会長 堀池 有



各地区にも守らない心ない少数の住民のため、町会・自治会で頭を悩ましている事実もある。

松沢地区の委員会は、熱心で情熱をもった委員が多いこともあって、特有な活動をしているので、その活躍ぶりの一端を紹介しよう。

委員会発足当初から、A、B、Cの三つのグループに分け、各委員がいずれかのグループに所属し活動している。

Aグループは、普及・啓発を担当し、各イベント会場での啓発活動ばかりではなく、昨年、地区内のごみ

集積所の調査を実施した。これはNHK放映の『難問解決ご近所の底力』に出演して得たヒントを参考に町会・自治会の協力で実施したもので、改善には時間のかかる集積所もあるなどの課題はあるものの、ごみ出しマナーの改善向上に役立つことは明らかである。

の春秋二回、不用の衣類回収は、すでに地域に定着した行事となっている。年間の回収量は二十トン近くに及び、回収がなければ、その多くが可燃ごみとして搬出されるであろうことを思うと空恐ろしささえ感ずる。

もさんにも気軽に入場できるよう、子ども服の交換会、本のリサイクル、リサイクル品の制作展示、ゲーム感覚によるごみ分別テスト、おもちゃの修理、たこ焼き・フランクフルト販売、囲碁・将棋、茶室など多彩なコーナーを設け、和やかな雰囲気の中で普及・啓発に心掛けた。僅か一日の開催ながら、毎回千五百名ほどの来場者があって、地域の祭りとして定着しつつある。来場者の一人でも多

くの方が、ごみの減量とリサイクルの意識をもつてくれれば、フェアの意義は大きい。このフェアの続行を望む声は強いものがある。ごみ問題は、人のマナー・誠意に帰することで、いうならば心に関わる問題である。このような意味合いから、ごみの問題は『永遠のテーマ』という知者もいる。

少なくしよう、物を捨てないうでリサイクル・リユーズしようと呼びかけても空しい思いがしない訳でもない。しかし、ごみ問題は、単に減量・リサイクルに止まらず、省エネ、エコロジ、環境汚染など多くの事柄に関わり、ひいては防犯・防災とも無縁ではない。松沢地区の委員会では、今後ともこれら多岐に及ぶ問題に真摯に取り組む決意で委員各位が張り切っている。



委員会の集大成と位置付け、学校、諸団体に呼びかけ、多くの出展参加を得て、一大イベントとして既に三回実施してきた。フェアでは、高齢者や若いお母さん、そして子ど

玉川地域

# ごみ減量リサイクル 推進への取り組み

九品仏自治会会長 岡 秀 俊  
(九品仏地区ごみ減量リサイクル推進委員会)

九品仏自治会は隣接2町会（奥沢中和会、玉川田園調布会）と共に、九品仏地区ごみ減量リサイクル推進委員会に所属し、三町会・自治会から選出された委員

が中心となって、ごみ減量リサイクル推進活動に従事しております。この活動には町会・自治会あげて全面的に協力しておりますので、このことを

主に報告いたします。清掃事業が世田谷区に移管されて4年になります。この間、ごみ発生や排出抑制、資源回収の実施、区民、事業者の協力により、年間



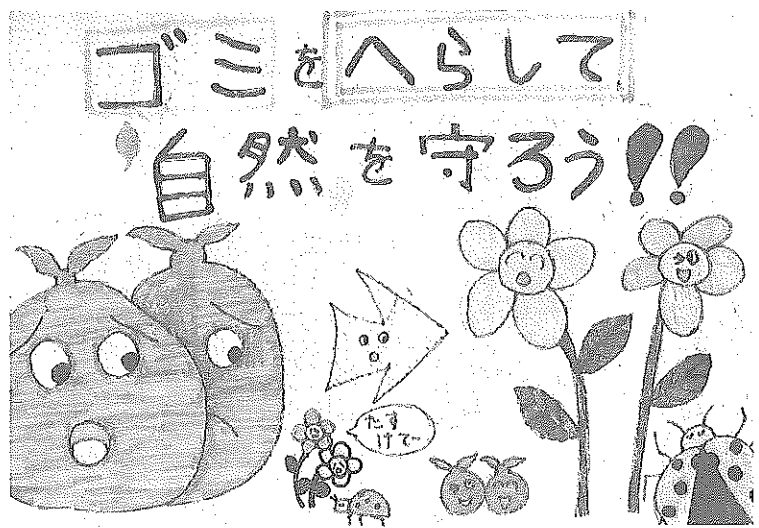
平均で、初年度に比し、2.5倍の資源が回収され、ごみ収集量は約20%減少しています。循環型社会を実現するためには、一層のごみ減量が必要であり、区民一人ひとりの実行が欠かせません。

①委員全員よりアンケートをとり、計画段階から全員の参加型の行動する会をめざし、アイデアを活用することとしました。②ごみはとかく暗いイメージで見られがちですが、これを明るくとらえて委員が活動することを心がけており、黄色い統一の明るいユニフォームで活動しています。③委員の数は限られていますので、委員は黒子に徹し、大多数

の一般区民の方に如何にごみの分別、減量リサイクルに協力して頂けるかを第一義に考えています。④八幡中学校の生徒会ボランティア会にも地域の催しに参加してもらい、委員、地域の人と

老若男女一体となって、会の活動に自主的に参加してもらっています。⑤小学生にもごみ減量のポスターを夏休みの宿題として作成してもらい、家族ぐるみで、ごみ減量リサイクルについて考えていただいています。具体的な活動は次の通りです。

(A) 地域の催しに参加  
(イ) 新春九品仏地区餅つき大会参加(九品仏浄真寺参道に来場者500人)、ごみ分別指導、分別クイズ、エコ紙芝居、清掃車の駆動実験、世田谷ティッシュ、ロールの販売などを行いました。



八幡小学校 4年 高井 杏那

(B) 盆踊り大会参加(八幡小学校に来場者1500名) ごみステーションを設置し、啓発活動を行いました。  
(C) ごみゼロデーに参加、地域周辺の清掃を行いました。  
(D) 違法チラシ撤去に参加、併せて地域周辺の清掃を行いました。(夏休み前、春休み前)

(E) 小学生(九品仏小、八幡小)作成のポスターを掲示板、ごみ集積所に掲示しました。  
(F) ごみ減量リサイクル講座の開催  
(イ) 「生ごみから堆肥をつくろう」講座を開催し、米ぬかと牛乳パック、バケツを使った堆肥づくり(「えこひろば」石澤講師)を行いました。  
(ロ) ごみ減量、分別方法講座(玉川清掃事務所)を行いました。  
(G) 中古衣料・古布のリサイクル―主催奥沢中和会と共催で衣替えの時期に年3回開催して回収を行い、地域の方に喜ばれています。  
(H) 視察研修会  
横須賀市リサイクルプラザAicicle、川崎市リサイクルプラザの視察をし、併せて廃食用油の石鹸作り、牛乳パックのハガキ作りを行いました。  
(H) ごみ散乱防止ガードの設置

(I) 啓発PR

(イ) ごみ減量リサイクルの1枚のチラシの回覧、年3〜4回。手作りのごみの正しい分別についての簡単なチラシは特に有効でした。

(ロ) 地区のミニコミ紙「鷺の谷」に、ごみ減量リサイクル、視察研修会報告の記事を掲載しました。

本年度も前記を継続して実施する予定ですが、本年は新たに水分「ひとしほり作戦」を提案実行していきたいと思えます。調布市(人口20万人)で市民一人が生ごみを「ひとしほり」することにより、年間1億円節減できた旨報じられていましたが、世田谷区(人口80万人)で単純計算して「生ごみひとしほり」で4億円節減できることとなります。

もう一つはレジ袋抑制運動です。集積所では、レジ袋、本来回収すべきペットボトル、トレイの多さが目

につきます。商店会の催事で買物袋が配布されているので、袋を持参して買物することによりレジ袋を減らすことが可能となります。

ます。今後は商店会とも連携して一層のごみ減量に努めたいと思えます。

とを継続することにより、次の世代に美しい地球、やさしい環境を引き継ぐことができればと願っております。

きつばなしという状態が多いようである。メンバーの活動意識を維持するために月1回の定例会を設けたりするところが多いが、逆にそれがネックになって活動から遠のいてしまう例も少なくない。砧町にお住まいの方は、定例会の集会等のイベントを好まない。特に古くからこの地にお住まいの方がその傾向が強いようである。その点を踏まえ、砧町会わんわんパトロール隊では定例の集会を一切無くし、それに替わるメンバーの活動意識維持の手法としてハガキによる情報提供を行っている。成城警察署からの情報や最新の防犯理論に基づく知見を「砧町会わんわんパトロール隊通信」として短くまとめ、ハガキに印刷して各メンバーに配る。配達にはメンバーで手分けして行う。ハガキが届くたびにメンバーであるという意識が呼び起こされるという声を多く聞く。宛名にはわんちゃん

砧地域

# 町会ならではのサービス

## 「砧町会わんわんパトロール隊」

砧町会わんわんパトロール隊事務局 原岡 充

【全国に広がるわんわんパトロール隊】

犬の散歩時に腕章、ゼッケンを着用し防犯パトロールもするという通称「わんわんパトロール隊」は、平成15年3月に全国ではじめて

北烏山に誕生した。その活動内容の簡便性にも関わらず高い効果が期待できるところから急速に全国に広まり、

現在では全国各地で60余りのわんわんパトロール隊が活躍している。砧町会わんわんパトロール隊は、平成15年7月に成城署で4番

目、全国で7番目のわんわんパトロール隊として発足した。以来、順調に推移し平成16年5月現在で91家族、163名、103頭が登録している。その活動目的は純粋に「砧町の防犯性能の

【わんわんパトロールの活動品質の維持】

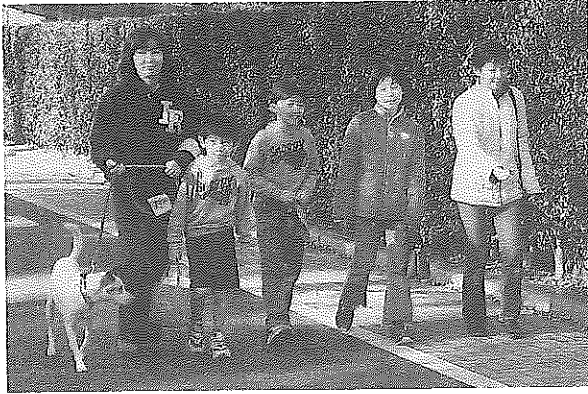
わんわんパトロール隊の発足は比較的簡単であるが、活動を同じ品質で維持することは難しいようである。腕章、ゼッケンを渡されたそのときは防犯意識が高くても、2、3ヶ月そのままの状態が続くと意識も薄れ、腕章、ゼッケンは家に置



名前も印刷しているが、それも好評である。

【警察署からの情報入手】  
砧町会わんわんパト

ロール隊では、その効果を高めるために毎週その週に発生した砧町内の被害状況を成城警察署に問い合わせ、インターネットのメールマガジンとして発信している。メンバーの多くはこれを購読しており、実際に起きた犯罪の種類や場所を知ってパトロールの際の参



考にしている。インターネット端末の設備を持たないメンバーへは電話で連絡し、パトロールの際に気をつけてもらうようにしている。

朝夕の小中学校の通学時間帯にお散歩する方には子ども達の周辺に特に気を配っていただいたり、防犯ブザーの音が聞こえたらとにかくそちらに駆けつけてもらうように依頼している。

これらの体制については小学校やPTAも大変期待してくれており、地域で子ども達の安全、親の安心を確保する体制が整いつつある。

【おわりに】

運営資金は世田谷区からの助成金、町会からの補助金で賄っている。メンバーからの会費徴収は一切行っていない。資金面での自立や警察署との信頼関係などはやはり砧町会

支援、その後ろ盾のおかげである。言い換えれば、町会・自治会のような地域住民組織による地域の安全

烏山地域

団地建て替えて

「コミュニティ」拡充

芦花公園団地自治会会長 瀧澤直幸

サービスは極めて効果的である。

今後とも行政、警察、学校、その他の組織と連携し、町

会・自治会として住民に提供できるサービスとは何かを常に考えながら活動していきたい。

平成15年の成城署管内町・丁別犯罪発生状況一覽表を見ると、前年比で管内の発生件数が3848件から4681件と22%増加、南烏山地区だけ見ても、497件から557件へと12%ほど増えている。その中の侵入盗が53件から81件と約53%も増加した。その後今年になってから区や成城署の安全・安心対策の取り組み強化や、それぞれの地域の特色を活かした、様々な防犯活動への取り組みが奏功し、発生件数はかなり減少している。

区立各小・中95校PTAのお母さん達が自分の自転車に「パトロール中」と印刷した黄色のステッカーを付けて、犯罪者をもっとも恐れる地域の視線強化に協力してくれている。犬の散歩を活用した「わんわんパトロール」運動も増え、日本女子体育大の学生たちが今年の春「りんりんパトロール」を結成、地域住民の防犯意識の向上と地域の安全活動に協力してくれている。

全国防犯協会連合会が最近発行した「安全に暮らす」

第5号に「犯罪者は人間関係の希薄な街を好む。住民同士に連帯感があり、日頃から声を掛け合う雰囲気が生まれれば、犯罪者を怯えさせ、犯行を諦めさせることが出来る」との記事があった。

私たちの芦花公園団地は今年四月末、第一期建て替えて十四階の12号棟と17号棟が完成、約190世帯が移転した。居住環境も階段からエレベーターに変わり、部屋の配置も階段という縦型からフロアごとの廊下で結ぶ横型になった。さらに

各戸の玄関が廊下から2mほど凹んでおり、これが視界に死角を作る形となったため、ピッキングが心配になった。この解決策として居住者以外の方の建物への出入り制限を目的に自治会がオートロックシステムを強く要求し、実現させた。

私達の自治会の過半数が今回の移転で、人間関係がこれまでの階段ことからフロア単位に変わり、お隣さんの顔も全く変わった。新規に都内各地域から四十世帯を超える方も引越して来られた。エレベーターで会った時「貴方は誰？」では困る。まず、人間関係の再構築が急がれる、と考え、十六年度活動計画に新築の二つの棟のフロアごとの居住者懇親会を企画している。これを手始めに自治会のさまざまな年間行事はもちろん、当面の団地内防災訓練も居住者にとって、身近でより魅力あるものになるようその内容を工夫し、多くの方の参加を得て、その機会を団地全体の交流の場にし、居住者同士の連帯感を一層高める「場」にしたいと考えている。地域のコミュニケーションで、安全・安心、より住みよい団地環境づくりに努めていきたい。



2月20日、世田谷地域では、地域内46の町会・自治会の代表81人が、世田谷区民会館集会所に一堂に会して、「町会・自治会交流会」が開催されました。

世田谷地域

# 町会・自治会活動の 情報交流会が行われる

世田谷地域町会連合会

高橋 英嗣  
河原 春雄  
岡村 紀久

世田谷地域町会連合会が15年度の研修活動として行ったものですが、「大変参考になった」など、引き続き行った懇親会と合わせて、参加者の好評のうちに幕を閉じました。その概要を紹介します。

2月20日、世田谷地域では、地域内46の町会・自治会の代表81人が、世田谷区民会館集会所に一堂に会して、「町会・自治会交流会」が開催されました。

おけるコミュニケーションをよくして、人材を開発するとともに、PTAなど他の活動団体のノウハウや力を町会・自治会に取り込むように努めていただきました。

世田谷地域町会連合会が15年度の研修活動として行ったものですが、「大変参考になった」など、引き続き行った懇親会と合わせて、参加者の好評のうちに幕を閉じました。その概要を紹介します。

今、地域活動が目ざされ期待されている話し合いにさきだち、世田谷総合支所長よりテーマに関連して次の趣旨の講話をいただいた。

学校協議会やPTA、隣の町会・自治会などと合同で、組織的計画的に避難所運営訓練に取り組んでいる状況が各町会・自治会から報告された。中に、20人程度の責任者会議を設けて準備する町会・自治会や、小地区ごとに街かど防災を行うほか、年1回町会・自治

情報交換のテーマと話し合いの方法

「防災や防犯、また支えあい活動など今地域の力が大変必要とされている。町会・自治会においては地域に

○防災に関する話し合いの内容

①防災、②防犯（パトロール）、③町会運営の3つのテーマで話し合った。

○今、地域活動が目ざされ期待されている話し合いにさきだち、世田谷総合支所長よりテーマに関連して次の趣旨の講話をいただいた。

学校協議会やPTA、隣の町会・自治会などと合同で、組織的計画的に避難所運営訓練に取り組んでいる状況が各町会・自治会から報告された。中に、20人程度の責任者会議を設けて準備する町会・自治会や、小地区ごとに街かど防災を行うほか、年1回町会・自治





会・自治会をあげて防災フェアを中学校、大学と連携して行う町会・自治会の報告があった。

このほか、月1回朝の30分間の防災訓練を、30年間続けて定着させた町会の報告があり、参加者一同から思わず拍手が沸いた。又、高齢化に伴い課題になっている災害弱者の把握とその防災対策についても具体的

な話し合いが行われた。

○防犯（パトロール）に関する話し合いの内容

話し合いに参加した20町会・自治会のうち17町会・自治会がパトロールを実施しており、各町会・自治会より実践報告が行われた。区の補助で購入したジャンパーを提示した報告。買い物行き帰りにテープレコーダーで防犯、

防災の標語を流しているという町会の実際のテープによる報告。21名の防犯活動推進委員が夜間2班制で防犯ちようちんを持って巡回し、毎月定例日は雨でも行うという報告。パトロール回数を増やし、近くの大学の学生とも共同で行って、犯罪件数が半減したという報告。新BOP（ポップ）の下校

時に合わせてパトロールし、学校から喜ばれているという報告などなど。

又、町会・自治会役員だけでなく、一般の町の人たちに広げる運動が必要だ、高齢者を標的にする犯罪が増加しているので引きこもっている高齢者へのPRも必要だなど、今後の課題にも話が及んだ。

○町会・自治会運営に関する話し合いの内容

の建設の際は、建設業者の方からのアクションで町会・自治会加入をしてくれるという話がある反面、ワンルームマンションなど10〜20世帯の小規模マンションの町会・自治会加入や、既存マンションの若年層の町会・自治会加入に大変厳しい状況があることが報告された。あわせて、小規模マンションにごみ出しルールの不徹底などの問題が多いこと、管理組合の理事者が若い人に代わって、行事への不参加や会費を出してもらえなくなる傾向があることなどが報告された。

その中、一方で会員の希望でつくるクラブ活動やミニサッカー大会など若い人を取り込む活動を活発に展開している事例や、幼稚園の親やPTAなどと連携する活動が報告され、新しい町会・自治会活動の息づきを感じる話し合いとなった。

## 防災行政用無線塔から 地域安全情報を放送します

### 危機・災害対策課危機管理担当

区では、防災行政用無線塔を区庁舎や学校、公園など区内187箇所に設置しています。

この防災行政用無線塔を活用して、空き巣やひったくり等に関する地域安全情報を放送します。

この地域安全情報を地域の安全安心まちづくりに役立てて下さい。

放送の内容は、身近な地域で多発し



# 町会・自治会長交替のお知らせ

平成16年6月15日現在

	町会・自治会名	新会長	前会長
世田谷地域	太子堂下ノ谷町会	佐藤 キイ子	浪貝 一夫
	桜丘1丁目町会	大木 重永	大木 照次
	野沢1丁目明朗会	佐藤 清	鈴木 友市
北沢地域	代沢中町会	矢島 嗣久	宗 晴
	北沢1丁目町会	木村 鋭男	月村 信勝
	赤堤1丁目町会	河田 恵量	千葉 満晴
	赤堤4丁目町会	岡村 良水	上保 芳一
	桜上水4丁目町会	新井 泉太朗	山根 静子
	桜上水5丁目自治会	三浦 澄能	鈴木 節夫
玉川地域	等々力和敬会	高橋 範秀	菅田 権造
	尾山台クラブ	小林 君子	福澤 進
	野毛町会	杉田 久男	木村 新平
	馬事公苑前ハイム管理組合 (理事長)	渡邊 榮衡	中島 達
	深友会	三田 松廣	三田 隆真
	東深沢町会	(未定)	安田 秀雄
	都営深沢アパート自治会	林 尧子	増淵 フジ
砧地域	公社・祖師谷住宅自治会	武田 忠明	青柳 松男
	千歳船橋郵政自治会	大橋 康男	齋藤 栄一
	大蔵東部町会	石井 洋一	福島 輝雄
	清水建設砧アパート自治会	貫上 優子	増田 紀子
烏山地域	都営烏山アパート自治会	和田 富也	鈴木 賢吉郎
	芦花公園前住宅自治会	川上 邦夫	佐々 正
	烏山第1団地自治会	中村 道生	向井 啓一
	給田北住宅自治会	伊藤 光男	守屋 裕次

## 東京都町会連合会総会 表彰式

▼6月16日

総会に引き続き表彰式が行われ、安田憲吾会長・後藤正三副会長・飯田恭次副会長・額賀一哲副会長・倉本俊幸副会長

が東京都町会連合20周年記念表彰を受けました。

## 新年親睦交流会

▼1月23日

区及び関係官公署と町総連役員との交流会

## 各地域町会・自治会連 合会総会

▼5月25日 世田谷地域町

会連合会総会

▼5月26日 玉川地域町

連合会総会及び懇親会

▼5月27日 砧地域町会

後藤副会長出席

自治会連合会総会及び懇親会 倉本副会長出席

▼5月31日 北沢地域町

連合会総会及び懇親会

▼6月4日 烏山地域町

自治会連合会総会及び懇親会

額賀副会長出席

お悔やみ申し上げます

東深沢町会会長

安田 秀雄殿

平成十六年五月二十九日没

赤堤一丁目町会長

千葉 満晴殿

平成十六年六月三日没

# 防犯重点パトロールを実施しています

生活文化部 市民活動推進課生活安全担当

区内全域を網羅する「世田谷24時間安全パトロール」に加え、区内各警察署と連携を図りながら、犯罪発生時刻・発生場所等の犯罪情報から巡回経路を指定し、効果

的に犯罪の未然防止を強化するため、7月16日から世田谷・北沢・玉川・成城警察署管内ごとに、警備会社等に委託して防犯の重点パトロールを実施しています。

## 編集後記

★ 今、世田谷区では、行政改革の一つとして、出張所の見直しと職員の削減に取り組んでいます。そうした中で、町総連としても行政の補完業務の協力体制をしっかりと行っていくかなければなりません。が、町会・自治会の活動は、ボランティア精神が基本です。それには地域の方々の、『ふれあい』が一番大切なことです。最近では地域のこ

ミュニティーが、やや薄れているかなと思います。今、日本では大変な高齢化社会をむかえています。『自分のことは自分で』が大原則ですが、どうしても、それが思うようにいかない方々には手を差し伸べてあげるのが、人としての道であると思います。最近の人間関係の希薄さが、児童・青少年の犯罪にも、影響を与えているのではないで

しょうか。世田谷区の教育長も「美しい日本語を世田谷の学校から」という取り組みを始めたそうです。家庭と学校のパイプ役として地域の方々の一層の協力体制が問われています。

★ 世田谷地域町連は15年度の研修活動として初めて『町会・自治会交流会』を行いました。情報交流会は、防災・防犯・町会運営の三つのテーマについて代表者81名で意見交換を行い大変好評でした。

★ 行政及び町会・自治会

活動の中で『ごみ』の問題も大変な課題です。北沢・玉川地域町連に於いては、『ごみ減量リサイクル』についての活動報告がありました。地域の地道な取り組みが、継続につながり、やがて近隣の人々の心を動かし、『リサイクルフェア』と称し現在は大イベントに成長した報告や計画段階から全員参画を決意し、今年度は、水分『ひとしほり作戦』を提案実行する計画を進めるそうです。

『ごみ』問題は、環境汚染などにもつながり、大きな社会問題です。抜本的な対策をたて、一日も早く循環型社会を実現する必要がありますが求められています。

★ 砧地域町連からは、『わんわんパトロール』の活動報告がありました。が、活動意識を維持するために、定例の打ち合わせ会が必要になるが、これがネックになり活動

が遠のく結果になるケースもある。又、資金面においても会費徴収という制度にすると、難点があり、その意味では今年度の世田谷区からの活動資金の助成はタイムリーであったと思う。

★ 烏山地域町連からは、『安全・安心』のためのコミュニティの拡充についての取り組みの報告があり、いかに人と人の関わりが大切かを痛感させられる。

★ 暗いニュースの多い昨今、町会・自治会の果たす役割は多岐にわたり非常に重要である。『元氣』の発信の源は、町会・自治会から合言葉に、明るく、安全で安心のまちづくりをめざし、編集委員一同さらなる努力をして参ります。

編集委員 高橋英嗣